

76 歳を迎えて

お蔭様で満 76 歳になりました。誕生祝として、紅白のアザレア(ツツジ)を 2 鉢いただきました。ありがとうございます。でも、ちょっと待って、そんなに急がないで、“ほっといて……”といった心境です。老いは、それ程までに駆け足で迫り、追い立てます。

五木寛之の『遊行の門』に、古代インドには人生を 4 つの時期に分ける思想があったと書かれています。

「学生期(がくしょうき)」〈0～24 歳〉…世間に生きるすべを学ぶ時期

「家住期(かじゅうき)」〈25～49 歳〉…大人になり結婚し子育てをし、
仕事に燃える時期

「林住期(りんじゅうき)」〈50～74 歳〉…子育ても終わりリタイアして、
人生を振り向く時期

「遊行期(ゆぎょうき)」〈75～90 歳〉…人生最後の締めくくりの大事な時期
私は遊行期に入りました。

「人は、人によって、仕事によって、また読書によって磨かれる」と或る人は言います。次々と大切なメンター(指導者、助言者)達に先立たれ、仕事も役立たずになると、どうしても手元に自分にとっての好読書を沢山集めたくなるものです。

私は青春ロマン小説や How-to 本(通称ビジネス書)を読むのが大好きです。恐らく皆さんは、私がこの手の本のフリーク(中毒者)とお考えでしょう。三文小説であれ、心動かす何か仕組まれ実践したくなる事柄が必ず一つはあります。しかし本当に賢くなり、実践の効果が上がり、想定外の出来事に対応できるかといえば、全く自信はありません。

年の暮れから三箇日にかけて、私は 20 年前に起った 2 つのカタストロフ(自然界および人間社会の大変動)の一つである、オウム真理教徒による地下鉄サリン事件を扱った村上春樹著『アンダーグラウンド』に耽溺しました。被害者の口述に基づく作者による聴き取り小説であり、そこには私共が取り組んでいる「語りの会」へのヒントが隠されているように思えたからです。

地下鉄サリン事件に関与したオウム真理教の加害者達は、恵まれた家庭環境で育ち、学業も優秀だったと聞きます。また彼等は、団塊の世代以後に派生した人達であり、専門書や信仰関係書に造詣が深くても、通俗小説を手にする事は極めて少なかったのでしょうか。恐らく現実とフィクションの区別、善と悪、生きていく知恵の線引きなどが苦手であり、被害者と加害者との区別すらできなかったのではと推察されます。

オウム真理教とは何の関係もない被害者達の生い立ちから始まり、人生の一コマである 1995 年 3 月 20 日の月曜日、立錐の余地もない通勤地獄の途次にどのような状況下であの忌まわしい事件に巻き込まれてしまったのかが、実に木目細かに聞き取られています。

村上春樹氏が、地下鉄サリン事件を被害者側の視点に立ってノンフィクション小説(物語)に仕立て上げるためには、その時それぞれが取った行動や生い立ちを語っていただけた被

害者達の、5 日間に一度、2 時間に亘る辛抱強い聞き取り(1 年間で 62 名)、録音内容の書き起こしと編集といった、多くの作業を要しています。しかしながら彼は、被害者の語りに苦痛を感じることなく、一人ひとりの辿った人生の物語に引き込まれたと記述しています。

語り手が被害者(約 4,000 名、死者 13 名)のほんの一部であったにしろ、今回の調査対象 140 名のうち聞き取りができた匿名を含めた 60 名近くの方々が、実際にノンフィクション小説として取り上げることを承諾していることは、「それは村上さんが聞き手であったからでしょう」と河合隼雄氏は対談において語っておられます。

その後、加害者側(オウム真理教現信徒、脱会者)の聞き取りによる、ノンフィクション小説『約束された場所で **underground 2**』が発刊されています。

ここで彼の雑文集(新潮文庫、2015)の中で語られている言葉を紹介します。

「人々の語る声に耳を傾けていただきたいと思う

いや、その前に自らのこととして想像していただきたい」

これは、私共が取り組んできた「語りの会」の意味を凝縮した言葉と捉えます。

この大事件の 2 ヶ月前には、日本中を震撼させ、想定外の出来事として世界を驚かせたもう一つのカタストロフである、阪神淡路大震災が発生していました。この 2 つの出来事は、バブルが弾けた日本の将来を占うターニングポイントでもありました。

昨年度は右肩腱板損傷の修復術とリハビリに終始しました。横になって己の体を治療台に委ねていると、妙に小さいことが気になります。「神は細部に宿る」との諺がありますが、問題解決の鍵は、身近に存在する他人を思い遣る“心”ではないでしょうか。

自分を磨くもの・生き易くするもの・そして想定外の出来事にどのように対応していけるかは、しなやかな心・今あるものを使う(あり合わせで生きる)・自分はただ生きるだけで価値があると思う、ということであります。これも **How-to** 本から自らにインプットされた所見かもしれませんが。

皆様にとって明日もいい日でありますように

感謝

平成 28 年 1 月 19 日

はまゆう会会長 市丸 喜一郎

(校正：椎葉)

講談社文庫『アンダーグラウンド』

文春文庫『約束された場所で **underground 2**』 村上春樹著

(新王子病院本館 4 階 私の本棚)